

令和7年1月11日 土

10:00 ~ 15:30

元ちゃんハウス

見まっし。来まっし

一歩踏み出す

文化祭

石川県立図書館だんだん広場

がん患者とその家族が参画する

金沢がん共生まちづくり3.0

どなたでも
出入り自由で
参加頂けます!

【お問い合わせ】
元ちゃんハウス
tel:076-232-5566
genchanhouse.com



場

広

ん

だ

ん

だ

石川

県立

図書館

石川県金沢市小立野
2丁目43番1号

JR金沢駅から
北約15分「石川県立図書館」
「東海・県立図書館口」で下車



YAM助成
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉財団助成事業

キャリアで
支える
高田康子
キャリアカウンセラー
10:35~

患者会で
支える
出戸和俊
石川順友会
10:55~

企業・団体
で支える
宮崎 典子
越屋メディカルケア
10:10~

ここで
支える
今井昌夫
松原病院医師
11:10~

ルーシー
ダットン
村上美矢子
11:30~

体
メンテナンス
花岡修子
13:20~

がんとともに
生きる人の
社会参加を支える

地域と人
で支える
福田 稔
株式会社 歩
13:00~

アロマ
マッサージ
川上由夏
14:30~

体験!
"ようこそ" カレッジ
プログラム

ヨガ
北市 浩子
14:50~

サークルで
支える
クロスビク / レイモミ
ウクレレとフラのステージ
15:05~

コミナスで
支える
加藤瑞穂
ALLINUS オリナス
14:10~

高校生で
支える
ふくい SMILE
アクティ部
13:40~

ねこじゃらし
綿菓子・
駄菓子の干本引き
販売

EarthRing
アロマミスト
販売

あんど
パン・
焼き菓子
販売

地域の
つながり

つながり

同じ癌種はもちろん違う癌種でも患者同士だとなぜか安心してお話できたり、行動できたりします。

同じ年代で同じような経験をした方との繋がりを求めていると思うし、必要だとも思う

抗がん剤治療による副作用で脱毛しているときは、外見が変わってしまった自分を見られることが辛く、人に合わなくなりました。鏡を見ることも辛く自己嫌悪になり孤独を感じていました。

経営者や人事担当者同士の情報交換の場を設ける。

イメージ

がんのイメージが悪い。

職場内のがんに対する理解不足によってトラブルが起こると思います。

再就職するときに、がん治療中または経験者ということが障壁になるように感じる場合があります。

パートや契約社員のなどの有期雇用の場合は戦力外とみなされて契約終了になることが多いのが実情のように感じています。

「がん」をネガティブなものとして「隠す」という風潮が、日本ではまだまだ根強いことが気になっています。

空気を変えることで、もっと「がん」罹患後の人生で、様々な支援を受けやすく（また自分も経験を社会に還元できる）、生きやすい社会へと変化していくことが大切だと思っています。



元ちゃんハウス（がんとむきあう会）は金沢のまちに暮らすがん患者とその家族が、各自が持っている経験や知識、能力、特技、希望などを活かして、地域の多様な場で活動に参加したり、就労したりすることで活躍ができる…がんと共生する地域社会の構築を地域のみなさまと一緒に目指します。

..... がん患者とその家族が参画する金沢がん共生まちづくり3.0

金沢のまちに暮らすがん患者とその家族が、各自が持っている経験や知識、能力、特技、希望などを活かして、地域の多様な場で活動に参加したり、就労したりすることで活躍ができる「社会参加」を広く推進することを目的に、がん患者とその家族と地域の団体や組織、企業が、それぞれが抱える課題やニーズを共有して、ともに考えながらアイデアを出していく常設の学びの場[※]ようこそ、カレッジを設けることで、それぞれのニーズのマッチングと実際のがん患者やその家族の活動参加や就労を生み出し、地域全体としてがんと共生できる金沢のまちづくりに取り組んでいく事業。

がんに影響を受ける人が地域の場での交流や活動、ボランティア、就労といった社会参加を推進するためにはどんなサポートが必要なのかを、がんに影響を受ける方や地域で活動する団体にご協力いただいたアンケートの[※]声、をご紹介します。

地域

地域には、がん患者さんのための施策を考えている行政や、ヘルスケアに関わる人々など様々な資源があるので、中間支援団体がうまくコーディネーターとなることにより、サポートが受けられる場が増えていく。

企業や組織が両立支援を理解する必要を感じました。

地域全体でどこでも同じケアが受けられる体制作りが急務。

本人を中心として「何をしたいか?」「何がわからなくて困っているのか?」を十分に聴く体制・場所を整えることでより良い選択ができることが増え、その後のがんと共に歩む（暮らす）ことに良い影響がでる。

いくつかの拠点があることは知っているが、身近とはいいいがたい。

一歩踏み出す勇気が必要であり、そこを突破できればサポートは充実しているように思う。

がんに対する知識と理解、そしてサポートは、人（団体）ごとに大きな差がある

